

定住外国人との共生の道を探る九州のブロック紙・西日本新聞のキャンペーン報道の集大成として、留学生数が全国屈指の福岡市でシンポジウムを開きます。政府は「移民政策」を否定していますが、外国人労働者が100万人を超え、私たちの社会は新たな移民時代に突入しています。さまざまなルーツを持つ人が共に生きる「共生」から、互いに学び合う「共創」へ。人口減時代の日本で共に生き生きと暮らすための方策を考えます。

「アジアの玄関口」福岡市で暮らす外国人、外国人を雇う企業の担当者、行政職員、移民政策の研究者など、普段は一堂に会する機会がない当事者が意見を交わします。「未来を創る財団」会長の國松孝次氏による基調講演と「新 移民時代」取材班の報告を基に、円卓会議（ラウンドテーブル）方式で「どうすればいいか」について政策的な議論。後日、特集面などで読者に報告します。

【開催日時・会場】

6月17日（土）午後1時30分（午後1時開場）～午後4時（2時間半）

九州大学西新プラザ（福岡市早良区西新2-16-23）大会議室AB（控え室＝小会議室）

※約10人のパネリストが円卓状にテーブルを置いて議論し、その模様を階段状の座席から一般市民や定住外国人問題の関係者が聴講する形式です。

【主催・共催】 主催：西日本新聞社、共催：未来を創る財団

【定員】 200人（一般席）※入場無料・事前申し込み不要

【式次第】

(1) 主催者挨拶（柴田建哉・西日本新聞社社長）

(2) 基調講演（國松孝次氏 未来を創る財団会長・元スイス大使・元警察庁長官）

(3) ラウンドテーブル（進行役＝遠矢浩司編集局）

＜円卓席候補者＞①留学生②定住外国人③外国人支援者④外国人を雇用する企業の経営者⑤日本語教師⑥大学教員⑦外国人集住地区の自治会役員⑧福岡市職員⑨「やさしい日本語」ツーリズム事務局長⑩⑪未来を創る財団関係者⑫本紙記者＜計12人＞

※取材班が連載で浮き彫りになった主な課題を報告。それを受けて1人3分ずつ発言した後、

①「労働者としての外国人」をめぐる問題②「生活者としての外国人をめぐる問題」ーの2テーマについて40～50分程度ずつ、具体策を議論する。詳報を西日本新聞の特集面と、未来を創る財団のニュースレター等で配信する。

(4) 閉会挨拶（石坂芳男 未来を創る財団代表理事・トヨタ自動車顧問）

①留学生

シェルスタ・ラム・クリシュナ氏（34）＝1983年1月2日生まれ

…ネパール出身の元留学生。「福岡ネパール・ソサエティー」代表。留学生問題の改善を訴えるシンポジウムを企画

②定住外国人

陳維嘉・福岡徳洲会病院人工関節・リウマチ外科センター医長（46）

…中国出身。18歳で来日し、留学や子育て、就労を経験。日本在住歴は通算25年。

③外国人支援者

松崎百合子・女性エンパワーメントセンター福岡代表

…アジアからの移住女性の支援に取り組む。大野城市議

④外国人雇用企業経営者

竹野孔・株式会社タケノ（居酒屋チェーン「竹乃屋」）社長＝1955年生まれ

…今春から、ベトナム人の若者に日本語学校の学費を貸与し将来の就職につなげる福岡県中小企業経営者協会連合会（中経協）の事業第1号をスタート

⑤日本語教師

永田大樹・福岡日本語学校校長（39）

⑥移民政策研究者

佐藤由利子・東京工業大准教授（59）

専門は留学生政策や開発経済、技術移民。元JICAネパール事務所駐在所代表補佐

⑦留学生問題研究者

岩切朋彦・鹿児島女子短期大講師（40）

…元日本語教師。西南学院大在籍時、福岡県内の留学生の実態を調査

⑧行政関係者

副島信次・福岡市南区役所企画振興課長

⑨「やさしい日本語」関係者

吉開章・やさしい日本語ツーリズム事務局長（50）

…福岡県出身、電通新聞局日本開発室 シニア・マネジャー

⑩毛受敏浩・日本国際交流センター執行理事（未来を創る財団）

…国内外の移民問題に精通。近著に「自治体がひらく日本の移民政策」「限界国家」など

⑪戸田佑也・株式会社あらまほし代表取締役（30）（未来を創る財団）

…元三菱UFJリサーチ&コンサルティング研究員。中央省庁・地方自治体の受託調査・コンサルティング業務に従事し、2015年に独立。日本茶の通販・海外輸出に取り組みながら、企業・公共団体などのコンサルティングをしている

⑫本紙記者（古川幸太郎記者）

…東京支社報道部経済取材班。民間経済の取材を担当し、首都圏で外国人労働者問題を追う。今春まで本社社会部遊軍に在籍。日本語学校をめぐる問題などを取材し、ネパールの現地取材にも従事